

2025年3月25日

宮崎交通株式会社
九州旅客鉄道株式会社宮崎支社

宮崎交通株式会社と九州旅客鉄道株式会社の包括連携協定の締結について

宮崎交通株式会社（代表取締役社長：高橋光治、以下「宮崎交通」）と九州旅客鉄道株式会社宮崎支社（支社長：吉村一喜、以下「JR九州」）は、下記のとおり、包括連携協定を締結しました。

記

1 協定締結の目的

地域の皆さまにとって利便性の高い輸送サービスを実現するとともに、持続可能な公共交通ネットワークを構築することを目指します。

2 連携事項

宮崎交通および JR 九州は、以下の項目について、相互に情報や意見の交換を行い、協力して取り組みます。

(1) 公共交通の利用促進に関すること

- ・ MaaS の利用機会を増やし、共通乗車券などを企画します。
- ・ 大型イベントにおける公共交通利用の向上と多客輸送の連携を目指します。

(2) 利用者の利便性の向上に関すること

- ・ バスと列車の乗り換えの不便を解消し、交通結節点の利便性向上を目指します。
- ・ 両社での情報共有とお客さまへの情報発信を積極的に行い、災害等発生時の連携を高めていきます。

(3) 相互連携による輸送の最適化に関すること

- ・ 公共交通としての地域の足を確保し持続可能な交通ネットワークの構築を目指します。
- ・ バスと列車で連携して地域の交通事情に合った輸送を行います。

3 代表者のコメント

宮崎交通株式会社 代表取締役社長：高橋光治

全国的に問題になっている運転士不足は宮崎交通でも深刻な課題です。最優先課題として採用活動に励んでおりますが人口減少等もあり劇的な改善は厳しく、また自動運転を始めとする最新技術も実用化に向けては課題が多く、現状のままでは地域交通を維持・発展していくことは非常に厳しい状況です。このような状況を打破するためには、全ての公共交通関係者が「共創」することが重要です。とりわけ、鉄道と路線バスの共創が急務と考え、本協定により今まで以上に JR 九州と宮崎交通が協力・連携することで、地域の皆さまが利用しやすく、そして持続可能な公共交通ネットワークを提供していきます。

九州旅客鉄道株式会社 宮崎支社長：吉村一喜

地方では少子高齢化や過疎化が進み、公共交通の利用者が減少しています。また、コロナ禍後の社会変容により、交通事業者を取り巻く環境は厳しい状況です。それでも、公共交通に対する不満はまだまだ多くあります。そこで、宮崎交通と JR 九州が協力し、利用者の利便性を高め、持続可能な公共交通ネットワークを構築することで、地域の皆さまの生活を支え、より快適で利用しやすい公共交通を提供していきます。

以上

■宮崎交通とJR九州の取り組み

- 2011年3月12日 ・ B&S みやざき運行（JR九州バス、宮崎交通、産交バス共同運行）
- 2020年10月16日 ・ 宮崎駅バス乗り入れ（宮崎駅西口駅前広場整備）
- 2020年11月6日 ・ 宮崎県における MaaS 実証実験の実施
・ 「JR九州&宮交バス 日南1デーフリーパス」発売（my route）
- 2020年11月20日 ・ アミュプラザ宮崎開業（JR 宮交ツインビル）
- 2021年3月25日 ・ 列車とバスの運行情報提供デジタルサイネージ設置
（高鍋駅、日向新富駅、佐土原駅）
- 2021年9月10日 ・ 地域輸送サービスの連携に関する覚書の締結
- 2021年10月1日 ・ 高鍋駅バス停（ロータリー内）全便乗り入れ
・ 「高鍋デジタルきっぷ」、「木城デジタルきっぷ」発売（my route）
・ 「JR&宮交バス お買物デジタルきっぷ」発売（my route）
- 2025年3月1日 ・ 「高千穂～延岡～宮崎周遊チケット」発売（my route）
- 2025年4月1日 ・ 包括連携協定の締結

